

この夏、蜂にご注意を！

アナフィラキシーについて

救急診療科

藤井 公一



アナフィラキシーとは

アナフィラキシーとは食物を食べたり薬を飲んだり、虫や動物に刺されたり咬まれたりした後などに起こる、全身性のアレルギー反応です。当院でのアナフィラキシーによる昨年1年間の救急外来受診数は27人で、原因物質は多い順に食物、蜂刺され、薬でした(図1)。様々な物質が原因となりますが、今回は夏から秋に多く見られる蜂刺されによるアナフィラキシーについてお話しいたします。

蜂刺されによる

アナフィラキシーのしくみ

虫や動物が原因のアナフィラキシーとしては、蜂刺されによるものが最も多く、全国のアナフィラキシーによる死亡例も蜂刺されが最多となっています。蜂毒には、痛みや

アナフィラキシーの症状

蜂毒によるアナフィラキシーの場合は、数十分以内に複数の症状があらわれます。

- ① 皮膚の症状
 - ・ 顔や体が赤くなる、痒くなる
 - ・ 蕁麻疹じんましんがでる・唇や目がはれる
- ② 呼吸器の症状
 - ・ 喉がイガイガする、痒くなる
 - ・ 声がかすれる・咳がでる
 - ・ 鼻水やくしゃみがでる
 - ・ 息が苦しい・喘息が起きる
- ③ 心臓の症状
 - ・ 血圧が下がる・めまいがする
 - ・ 意識を失う・胸が痛む
 - ・ 脈がとんだり速くなる
- ④ お腹の症状
 - ・ 吐き気、嘔吐がある
 - ・ 腹痛や下痢を起こす
- ⑤ 神経の症状
 - ・ 意識が低下する・痙攣けいれんする

このような症状は急速に進行し、15分以内に呼吸停止や心停止の状態に至ることもあります。

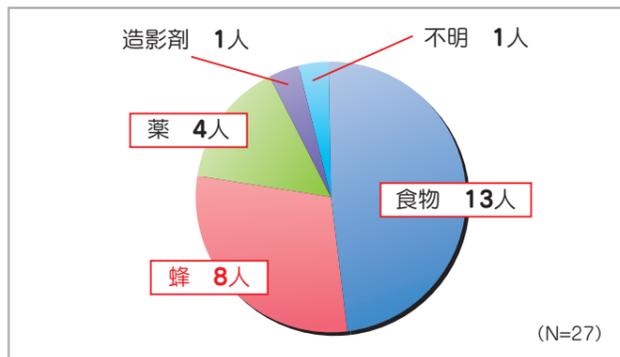


蜂に刺された時の対処法

蜂に刺された時は、毒は決して口では吸い出さず、指で絞り出しながら水で洗ってください。また毒針が残っている場合は、爪や毛抜きで取り除いてください。尿(アンモニア)をかけても効果はありません。

蜂毒にアレルギーのない場合は、刺された場所の痛みや痒みなどの局所症状が認められます。しかし、前述のアナフィラキシーの症状が出現した場合は、直ちに医療機関での処置が必要となりますので、救急車を呼んでください。

図1: 当院におけるアナフィラキシー受診患者原因物質の割合(平成24年度)

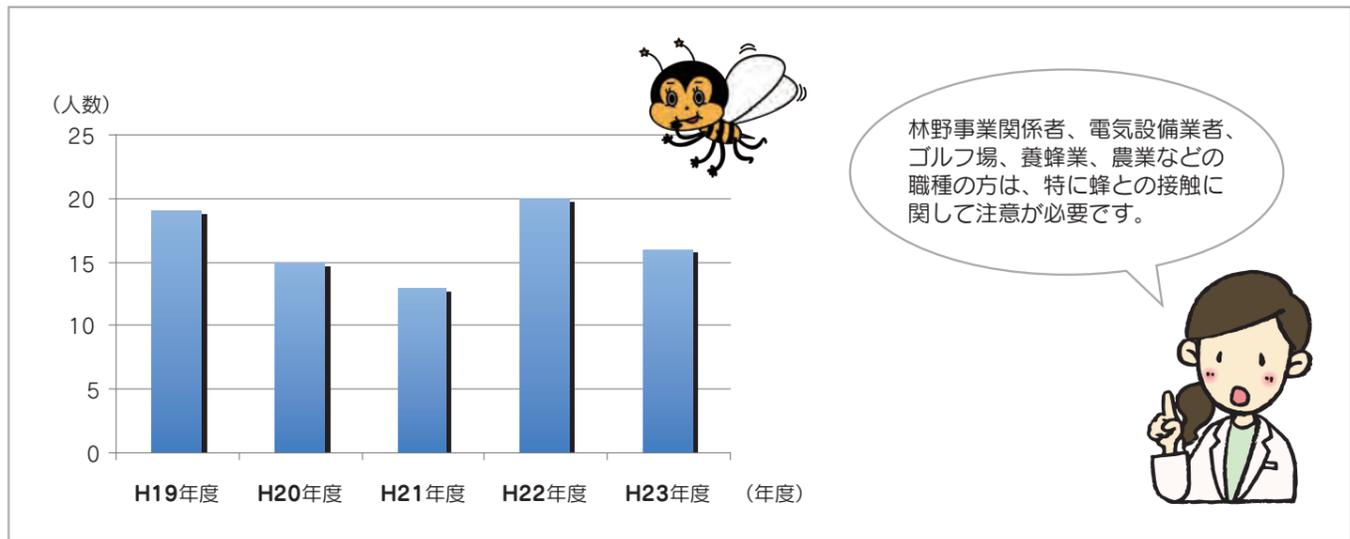


食物アレルギーについて

鶏卵、牛乳、小麦は「3大アレルゲン」とよばれます。この他にも食物アレルギーの原因となる食物には、そばやピーナッツ、えび・かになどの甲殻類、果物、豆類など幅広くあげられます。



図2: 蜂刺されによるアナフィラキシーが原因の死亡数(全国)



林野事業関係者、電気設備業者、ゴルフ場、養蜂業、農業などの職種の方は、特に蜂との接触に関して注意が必要です。

図5：エピペン®



自己注射薬（エピペン®について）

エピペンは、蜂毒、食物及び薬剤等によるアレルギーを治す薬剤ではなく、アナフィラキシーの症状を緩和するために、自己注射する補助治療剤です。

エピペンには、アナフィラキシー発現時の治療に用いられるアドレナリンの薬液と注射針が内蔵されています。オレンジ色の先端を太ももの前外側に強く押し付けるだけで、バネの力により一定量の薬液が筋肉内に注射されるしくみになっています（自分で量を計る必要はありません）。

出展：ファイザー株式会社「エピペン」
URL：http://www.epipen.jp/

図3：蜂刺されによるアナフィラキシーでの受診数（当院）

来院月	年齢	性別	来院方法	入院の有無
5月	64歳	男性	独歩	あり
8月	54歳	男性	ドクターヘリ	あり
8月	59歳	女性	独歩	なし
9月	60歳	男性	救急車	あり
9月	70歳	男性	救急車	なし
9月	67歳	男性	独歩	あり
9月	60歳	男性	救急車	あり
10月	31歳	男性	独歩	あり

蜂刺されは、夏から秋にかけて最も多くみられます。これからの季節、注意しましょう。



蜂に刺されないために

蜂は黒っぽい色に向かって攻撃したり、甘い匂いに誘われたりする習性があります。それらを避ける服装や持ち物が望ましいでしょう。また、顔や首、腕、足など、露出した部分が真っ先にねらわれるので、屋外作業や山歩きなど、蜂がいそうな場所に行くときはなるべく肌を覆う服装を心がけましょう。

- ・ 服装は白っぽい色や明るい色の長袖を選ぶ。なるべく肌を出さない。
- ・ 黒いバッグ、黒いカメラなど、黒いものは持たない。
- ・ 花柄の服装、花柄のバッグなども避ける。
- ・ 甘い香りのする香水や整髪料はつけない。

危険！



図4：人を刺す習性がある蜂



アシナガバチ

体長は20mm程度だが、長い後肢を持っている。巣に近づいたり、巣を刺激したりしなければ、人を刺すことはない。



スズメバチ

体長は30mmを超え、日本でもっとも大きい。巣を守る本能が非常に強いため、興奮すると、人を攻撃する。



ミツバチ

体長は13~15mmで、人を襲うことはほとんどないが、つまんだりすると刺されることがある。

アドレナリン自己注射薬（エピペン®）

過去にアナフィラキシーを起こしたことのある人や、山間部や農村部で働いている人で、蜂に刺されるリスクが高い人はアドレナリンの自己注射薬（エピペン®）（図5）の携帯がすすめられています。エピペンは健康保険による一部負担で処方を受けることができるので、かかりつけ医や当院の内科外来※にご相談ください。

※当院ではエピペンを処方できる医師が限られておりますので、来院前に一度ご確認くださいをおすすめしております。

蜂毒アレルギーを調べる検査

RAST法という血液検査で蜂毒特異的IgE抗体の量を調べます。抗体の量が多いとアレルギーが出現しやすくなると考えられますが、抗体の量が少ない方でもアナフィラキシーを起こす場合があります。蜂に刺された直後や、刺された後数ヶ月経過していると抗体の量が少なくなっている可能性がありますので、

アナフィラキシーの治療

アナフィラキシーの症状が出現した場合は、緊急にアドレナリンの投与が必要となります。アドレナリンはアナフィラキシーの治療には欠かせない薬です。その働きとして、心臓の働きを助け、血管を収縮させる事で血圧を上昇させます。また、気管支を拡張させる事によって呼吸を助けたり、アレルギーの原因となる化学伝達物質の脂肪細胞からの放出を抑えたりします。

さらに酸素や点滴、その他の薬剤（抗ヒスタミン薬やステロイド）を使用する事も多くあります。治療によって一度症状が落ち着いても、数時間後に再度アナフィラキシーの症状が出現する場合があります（二相性反応）、念のため入院していただくことが多くなっています。

筆者紹介

診療部 救急診療科
藤井 公一 医師
《学会専門医等》
救急医学、内科一般
日本内科学会認定内科医
日本救急医学会救急科専門医
日本DMAT



救急診療科スタッフ
（筆者：後列右端）

検査は蜂に刺されてから2~4週間後に実施するのが最適です。当院皮膚科で実施しておりますので、ご希望の方はご相談ください。

蜂対策

蜂刺されは年間通してみられますが、夏から秋に最も多く、全国的には8月がピークと言われています。当院でも、昨年1年間で8人の方が蜂刺されによるアナフィラキシーで受診されており、受診時期は9月に集中していました（図3）。

人を刺す習性があるのは、スズメバチ・アシナガバチ・ミツバチの3種です（図4）。スズメバチとアシナガバチによるアナフィラキシーが死亡原因の70%を占めていると言われています。これらの蜂は、山間部はもちろん民家の周辺にも巣をつくり、靴の中や外に干した布団の中などに潜んでいる事があるので、注意が必要です。

